

氏名： 古瀬 奈津子 (FURUSE Natsuko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 博士 (文学) (1999 東京大学) / Ph.D. in Literature
専門分野： 日本史学 (日本古代史、特に日本古代の政治制度、儀式、平安時代史)
E-mail： furuse.natsuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

天皇制/律令制/儀式/日唐比較史/日唐関係史
Japanese Imperial System / Code-Statute System / Rituals and Ceremonies /
Comparative History of Japan and China / Historical Relationships between Japan and China

◆主要業績

総数 (7) 件

- 古瀬奈津子「營繕令からみた宋令・唐令・日本令」
『日唐律令比較研究の新段階』山川出版社 2008年11月、166-182頁
- 古瀬奈津子「敦煌書儀と「上表」文—日唐の表の比較をまじえて—」
『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』財団法人 東洋文庫 2009年3月、67-82頁
- 古瀬奈津子「女房としての紫式部」『日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成』
平成20年度活動報告書・海外教育派遣事業編 (お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム) 2009年3月、271-275頁
- 古瀬奈津子「芋粥の話」『日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成』
平成20年度活動報告書・学内教育事業編 (お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム) 2009年3月、191-194頁
- 『年中行事大辞典』(吉川弘文館、2009年2月)のうち、節会、所充、四方拝、女踏歌、節料、五節供、御節供、大歌所始、政始など15項目を執筆。

◆研究内容 / Research Pursuits

- 『史学雑誌』の「2007年の歴史学界—回顧と展望—」において、日本・古代の総論を担当した。
- 日唐比較研究として、天聖令の營繕令について宋令・唐令・日本令の条文構成・内容を比較研究した (主要業績①)。天聖營繕令の宋令と唐令については韓国・中国史学会主催の国際学術大会「通過法律看中国歴史」全体会議で基調報告を行った (9月、韓国・国立忠北大学校)。敦煌書儀や実例から唐代における上表文の変遷を扱い、日本における上表文との比較から、日唐の天皇・皇帝と官人の関係の相違について考察した (主要業績②)。
- 平安時代史としては、女房としての紫式部、芋粥について考察し (主要業績③④)、『年中行事大辞典』の項目を担当した (主要業績⑤)。
- 国際日本学シンポジウム「人類・食・文化」をコーディネイト (7月)、国際日本学コンソーシアム「食・もてなし・家族」(12月)を担当して、食を視点とした新しい生活社会史の可能性を示した。

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. 学部では、日本史入門講読、日本史講読を担し、史料の読み方・調べ方の手ほどきをした。日本文化史概論では、安田次郎教授と合同で日本古代・中世史の概説を行った。日本古代中世政治史では、平安時代について王権、政治システム、都市、受領制などを論じた。日本古代史演習では『続日本紀』延暦3年・4年条を講読し、桓武朝初期の政治・社会を考察した。大学院では、『令集解』管籥令と『小右記』寛仁3年条を講読し、律令制の基礎とその後の社会的変化について理解を深めた。卒論・修論については発表会と個別指導を併用した。歴史現地調査では、難波宮・長岡京の古代都城、近つ飛鳥の古墳群を探索し、大阪歴史博物館・近つ飛鳥博物館を見学した。
2. 大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的伝達スキルの育成」による国際日本学コンソーシアムでは歴史学部会を担当。2009年1月には、パリ・ディドロ（第7）大学との共同ゼミ、フランス国立図書館での敦煌文書調査に院生とともに参加。大学院の国際教育に寄与した。

◆研究計画

1. 東アジアにおける日本という視点から、日本古代の天皇制研究を進め、日本社会の特質に迫る。
2. 共同研究「日唐律令比較研究の新段階」（科学研究費による）を継続し、天聖令による日唐令比較研究から、日唐古代社会の本質的差異と歴史的展開の共時性を明らかにする。
3. 平成19年度科学研究費に採択された「文書様式からみた日唐古代官僚制の比較研究」を進展させ、日唐の上表文・奉表文を分析することにより、唐の皇帝と官人の関係と、日本の天皇と官人の関係との違いから、日中における集団と個人の間接関係を考察する。
4. 共同研究「身分感覚の比較史的研究」により、従来とは別の見方で、日本古代における身分について考える。
5. 日本学の観点から、海外の日本研究者と共同で、日本の社会と文化について、異なった視点からの学際研究を進める。

◆メッセージ

女子大というと閉ざされたイメージがあるかもしれませんが、お茶の水女子大学の場合それは当てはまりません。サークルだけではなく、ゼミや勉強会を通じて他大学との交流もあります。他大学の単位を取得する制度もあります。お茶大の中だけに閉じこもらずに、積極的に外の世界とのつながりをもつようにしましょう。

ただし、国立女子大学の意義もまたあると思います。現代社会においては、まだ就職や、結婚をし子どもをもった後に仕事を続けようとした場合などに、男女平等とは言えない部分があるのではないのでしょうか。子どもの出生率が下がったままなのは、こうしたことに原因があるのではないのでしょうか。本当の意味において男女がそれぞれの特性をいかして生きていける社会を実現していくために、国立女子大学の意義はまだ大きいと言わざるを得ないと思います。